

やってみよう!

“うちどく”で

“みえびいしおり”か“みえびいバッジ”を
もらおう! 詳しくは裏面を見てね!



みなさん、「家読（うちどく）」という言葉を知ったことはありますか？

「家族で一緒に本を楽しむこと」、ただ、それだけなんです。大人が子どもに愛情をこめて本を読んであげたり、家族で同じ本を読んだり、親子で本のことを話題にすることで、家族でコミュニケーションを図りながら、本を楽しむことができます。

子どもが本に親しむ原点は「楽しさ」です。家庭は子どもが読書と出会うきっかけをつくる大切な場です。その大切な場で子どもたちが読書を楽しみ、自ら読書に親しめるよう、大人と子どもと一緒に読書に親しむ「家読（うちどく）」を三重県教育委員会ではすすめています。

みなさんの
“うちどく”を
ご紹介します

三重県教育委員会では、みなさんのご家庭での読書の楽しみ方や家族とともに楽しむ本を募集（平成30年10月～平成31年1月）しました結果、様々な“うちどく”を教えてくださいました。その一部をご紹介します。

共働きで平日は時間がとれないので、毎週土曜日に朝ご飯の後、みんな一冊ずつ読みます。子どもたちも「一緒に読もう!」と声をかけてくれるようになりました。

毎晩、寝る前に子どもたちに本を読み聞かせています。布団に入った子どもたちのすぐ横で、親が本を読むのは親子ともにリラックスできる至福の時間です。子どもたちも続きを楽しみにしてくれています。

他にもいろんな“うちどく”を
教えてもらいました。ぜひ、
ホームページをご覧ください

三重県 うちどく 🔍



親子でお互いにお気に入りの本を読み聞かせします。子どもの趣味や好みがよくわかり、話はずみません。兄弟同士での読み聞かせも楽しんでいるようです。

“うちどく”で
“みえびいしおり”か
“みえびいバッジ”を
もらおう!



イメージです

読む本の登場人物になりきって、親子で読みます。〇〇役と〇〇役にわかれて、それぞれが演じながら読みます。役になりきって、演じる言葉を楽しんでいるようです。

平成31年3月発行
三重県教育委員会事務局
社会教育・文化財保護課
〒514-8570 津市広明町13番地
TEL:059-224-3322
FAX:059-224-3023
メール: shabun@pref.mie.lg.jp
Twitter: https://twitter.com/mie_kodomo_book



Twitterの
ユーザー以外の
方も見れます!

やってみよう!

“うちどく”!

抽選で300人に
「みえびいしおり」か
「みえびいバッジ」
が当たるよ!

イメージです



応募方法!

- ①家族と一緒に読む本を5冊えらぼう。
- ②「読んだ本の名前」欄に家族と一緒に楽しんだ本（読み聞かせた本も含む）の名前を記入しましょう。
- ③「楽しんだ度」欄に読んでおもしろかった、よかったなど、楽しんだ程度に応じて、色をぬってみましょう。
- ④5冊記入できたら、家族で「最も、楽しんだ本」を決めよう。
- ⑤本が決まったら、ツイッター「三重の子どもと本をつなごう」で「応募キーワード」を見つけて、応募しよう!
※ツイッターはこちら → https://twitter.com/mie_kodomo_book



<応募はこちら> **応募期間 2019年4月1日から2019年8月31日まで**

応募用ページにアクセスして、「本の名前」、「本の作者」、「応募キーワード」を入力して、応募してください! 抽選で300人に三重県教育委員会マスコットキャラクター「みえびい」のイラストをあしらった「みえびいしおり」か「みえびいバッジ」が当たります! 抽選結果は商品の発送（2019年10月予定）をもってかえさせていただきます。
応募用ページ: <https://www.shinsei.pref.mie.lg.jp/uketsuke2/form.do?acs=uchidoku>
応募QRコードがうまく読み取れない場合はツイッターを見てね。応募のリンクをつぶやくよ!

ツイッターのユーザー以外の方も見れます!

応募QRコード

※応募の際に記入いただきました個人情報は、各関係法令に従い適正に管理・保護を行い、目的以外の利用は行いません。なお、記載内容は個人が特定されないように配慮のうえ、県のHPや図書館・書店で紹介するなど、読書活動の推進のために使用させていただく場合があります。

良かったら、
たくさん色を
ぬってね!

冊数	読んだ本の名前	楽しんだ度
1		
2		
3		
4		
5		

文部科学省が行った調査では、本を読むきっかけとなっていることについて、小学生では「家族と一緒に本を読んだり図書館や本屋に連れて行ってくれたりすること」が5割以上となっていることや、家庭での蔵書数が多く、また、家族に本を買ってもらったり紹介してもらったりするなどの関係がある児童・生徒のほうが、本を読んでいる傾向にあることがわかっています。



家庭は本と出会う大切な場

